

【国語】

	知識・技能	思考・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
重点課題	・学年配当漢字を正しく文の中で使うこと。 ・文の中での語句の係り方や文と文との接続の関係、話や文章の構成・展開についての理解。 ・思考に関わる語彙が少なく、それらを用いて話や文章のなかで使いながら気持ちや考えを表現すること。	・叙述を基に人物の気持ちや人物像、関係等について読み取ること。 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 ・メモを基に文章を書くこと。 ・文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめること、また、まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	・読書への関心と語彙や表現を広げようとする意欲。 ・他の人の話を聞くときにメモを取ったり、考えたことを他の人に説明しようとしたりする意欲や態度。 ・学習課題に対して、思いや考えを広げること。
授業改善策	・文や文章の中で、漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことを日常的に意識させる。 ・学習した漢字や言葉を用いて文章を書いたり、話したりする活動を積極的に設定する。 ・本時のポイントになる文を取り上げ、主語、述語、修飾語、接続語など、文の構成を捉え読み取る活動を日常的に設定する。 ・音読や視写の充実を図る。 ・新単元に入る前に必ず国語辞典を活用して意味調べを行う。また、授業において分からない語句が出てきたときは、国語に限らず積極的に国語辞典を活用する。	・教材をしっかりと読んだり、聞いたりして、その工夫について話し合う活動の充実を図る。そして、その工夫を自分の作文やスピーチに生かすようにする。 ・根拠となる叙述などを明確にして、心情や情景を読み取らせるとともに、それに対する感想や気付きなどを文にまとめる活動を積極的に取り入れる。 ・話の内容を捉えてから、話し手の考えと比較しながら自分の考えを表現する活動を意図的に設定する。	・朝学習の読書時間の充実を図るとともに、新聞を活用して様々な記事に親しむことを通して、読むことの楽しさを味わわせ、関心を高める。 ・考えや思いを交流し合う対話的な活動を毎時間設定する。その際、思考ツールを意図的に活用して対話を広げ、深め、国語への関心や意欲を高める。 ・話す活動や書く活動においては、相手や目的を明確に設定して学習を展開する。 ・カリキュラム・マネジメントの充実を図り、他教科・領域等において国語で学んだ知識・技能を意図的に活用できるようにする。

【社会】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点課題	・問いに基づいて、地図帳や年表などの各種資料を通して読み取り、まとめること。	・社会的事象の見方・考え方を働かせて、問いを見いだすこと。 ・調べたことを比較、関連、結合して社会的事象の特色や意味、働きなどを考え説明したり、図表等にまとめたりすること。	・学習問題について予想や見通しをもち、すすんで追究し、解決しようとする。 ・学んだことを基によりよい社会を考え学習したこと社会生活に生かそうとすること。
授業改善策	・情報を適切に読み取ることができるよう、子どもの実態や学年段階に応じた資料を工夫したり、精選したりする。 ・地域や関係機関と連携し、調査活動を積極的に取り入れていく。 ・各種資料の読み取り方を指導し、分かったことや疑問に思ったことなどをノートにまとめる活動を毎時間設定する。 ・毎時間、問いに対するまとめを子ども主体で行うようにする。 ・調べて分かったことや考えたことを基に、学習問題に対する自分なりの考えを社会科の用語を用いて根拠や例を示しながら、文章や図表、白地図等にまとめ、交流し合う活動を単元の「まとめる」段階に必ず設定する。 ・学習問題について予想を立てる場面などで、学習したことを意図的に想起させる働きかけを行う。	・社会的事象の見方・考え方を働かせながら多角的に捉えられるような教材の開発、資料の精選、発問などの工夫をしていく。 ・資料などから自ら読み取ったことや、調査活動から分かったこと、考えたことをノートやクロームブックに自分の言葉で表現させる。 ・子ども相互に考えを広げ深めるために、考えたことや分かったことを説明したり話し合ったりする対話的活動を積極的に設定する。(ペアやグループ) ・思考ツールや一人一台端末を活用し、思考を可視化し、深められるようにする。 ・調べたことを比較、関連、結合した考えを深める表現活動を工夫する。(関連図、表、年表、白地図) ・「つなぐ」段階では、学習したことを基に、実生活で自分にできることを考えたり、選択・判断したりする活動を設定する。	・導入場面では、関心や問題意識を高めるための教材を開発したり、動画や写真、グラフ等の資料提示を工夫したりする。 ・子どもが学習問題を追究したいと思えるよう、地域や関係諸機関と連携していく。 ・学習問題に対する予想を基に学習計画を立て、見通しをもって追究する活動の充実を図る。 ・すすんで調べたりまとめたりするために、学年の段階に応じて一人一台端末を効果的に活用する。 ・子どもが選択して取り組む場面を意図的に設定する。(課題、時間、方法、資料、活動等) ・学習したことと実生活との関わりを関連付けながら考え、グループで話し合う場を設定する。 ・毎時間、めあてに対する振り返りを行うようにする。

【算数】

	知識・技能	思考・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
重点課題	・問題場面を正しく読み取ること。 ・身に付けた知識や技能を活用すること。 ・計算についての基礎的、基本的な知識及び技能の定着。 ・データの読み取りや活用方法の習得。	・問題場面や式を図や数直線、表等に整理して題意を捉えること。 ・数量や形、数量関係などに着目して見通しをもち、既習事項を活用して問題を解決すること。 ・グラフや表から読み取ったことを基に考察すること。 ・自分の考えを筋道立てて、分かりやすく表現したりすること。	・問題の解決に粘り強く取り組もうとすること。 ・算数科で学んだことを新しい問題や他教科・領域等、生活で活用しようとする。
授業改善策	・児童のつまずきを的確に把握し、実態に応じて関連のある単元や学期末の復習等を意図的に設定する。 ・分かっていることと求めることを確認し、問題場面を図表や数直線などに整理する活動を設定する。 ・グラフや表の読み取り方について繰り返し確認するとともに、他教科等でも学びを活用する場面を積極的に設ける。 ・数の仕組みや計算の仕方など、学習をしたことを自分の言葉で説明したり、まとめた活動を中心に毎時間設定する。	・問題文を表した図表や数直線を活用しながら、これまで学んだことをどのように活用したらよいか、解決の見通しについて話し合う活動を設定する。その際、児童の実態に応じ、既習事項に立ち戻って学び直すなどの場を設ける。 ・自力解決においては、多様な視点から解決の方法を考え、式や図表等、効果的な方法で表現する活動を毎回設定する。その際、学びの状況に応じ、適切なヒントを提示したり、助言したりするなど指導の工夫をする。 ・自分の考えを伝えたり、よりよい考えを見出したりできるように、発問や形態の工夫や、ICT 機器の活用等の手だてを工夫する。 ・複数のデータを比較・関連させて考察し表現する場面を意図的に設定する。	・正解・不正解に関わらず、最後まで諦めずに問題に取り組もうとする態度を価値付ける。 ・児童と教師が共にめあてや課題を設定し、主体的で問題解決的な学習の充実を図る。 ・他教科・領域等や生活との関連を深め、学んだことを活用する場面を意図的につくる。 ・一人一台端末等を活用し、個々の学習状況や関心に応じて、問題や問題数、考えるヒントや視点などを選択する場面を意図的に設定し、一人一人が主体的に取り組めるようにする。

【理科】

	知識・技能	思考・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
重点課題	・実験や観察を通して新たな知識を獲得すること。 ・目的や問題意識をもって実験や観察に取り組むこと。 ・自然の事物・現象の性質や規則性などについて学んだことを基に説明すること。	・問題に対して観察や実験から得られた結果と既習事項を結び付けて考察し、根拠をもって自分の考えを表現すること。 ・学んだことを基に、身の回りの自然現象について考え説明したり、それを利用した物を作ったりすること。	・自然の事象や現象に対する興味関心を高め、既習事項や生活経験と結び付けて、解決すべき問題を見いだそうとすること。 ・解決の見通しをもち、振り返りながら学びをすすめようとする。
授業改善策	・獲得した知識について説明したり文章にまとめたりする活動を意図的に設定する。 ・実験前に、目的や手順、器具や機器の適切な使い方について、演示したり ICT 機器を活用したりしながら具体的に確認する。 ・実験結果のまとめ方について話し合う場を設定し、適切なまとめ方を捉えられるようにする。 ・実験・観察の記録や結果の交流等において一人1台端末を効果的に活用する。	・疑問や学習課題について、前時の学習や関連する既習事項、生活経験などを想起させ、話形を活用しながら、予想を立てたり考察したりして表現する活動を必ず設定する。 ・問題解決の過程に沿った学習を徹底する。問題への予想や仮説を基に実験・観察の方法を考え、その結果から考察し、子ども自らが知識を獲得できるようにする。 ・本時の問い（めあて）に正対するように自分の言葉でまとめを書かせ、話し合いを通して、みんなで解決する問題解決的な学習の推進充実を図る。 ・学習形態を子どもの実態や教材に合わせて工夫し、一人1台端末を有効に活用して予想や考察を共有し考えを深められるようにする。	・見いだした問題をすすんで追究したり、既習事項や生活経験を生かしたりして主体的に学ぼうとする姿を積極的に認め賞賛する。 ・身の回りの自然現象を取り上げたり、学習対象に関わる体験的な活動を工夫したりして、問題意識や関心を高めていく。 ・問題を明確にし、常にそれを意識しながら追究できるようにするとともに、それに正対した振り返りを行う活動を継続する。 ・ペア、トリオ、グループでの交流と自力解決の場面を実態に合わせて効果的に取り入れる。 ・学びを実生活やものづくりなどに生かす活動を意図的に設定する。